

意見広告

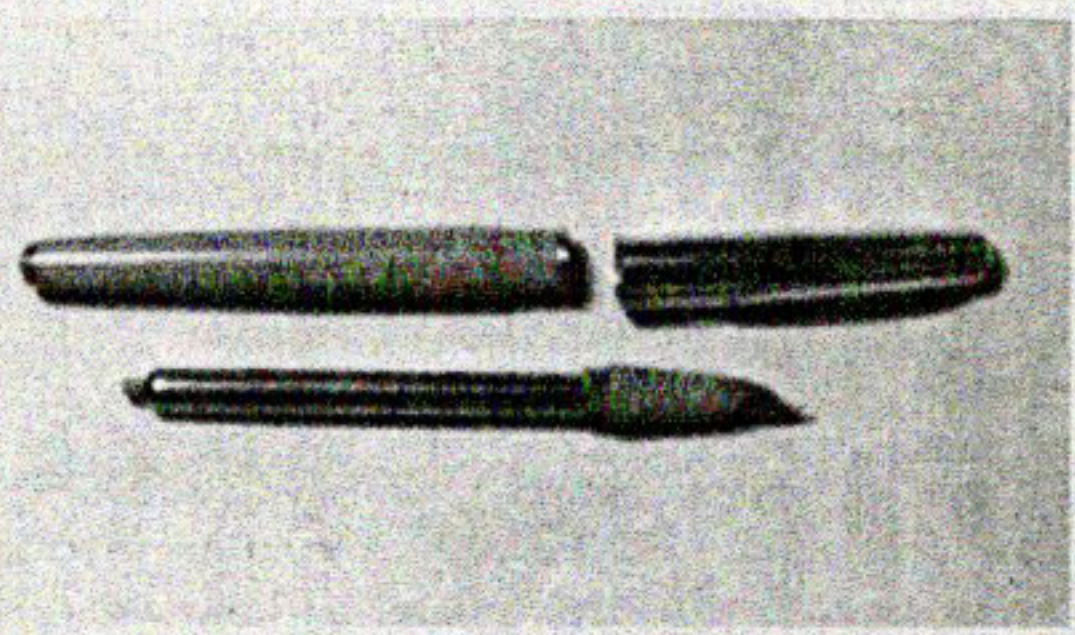
狭山事件55年 獄中に31年7カ月 えん罪被害者の石川一雄さん(79歳)

「狭山事件」をご存じですか？

1963年5月1日、埼玉県狭山市で起きた女子高校生誘拐・殺人事件です。身代金を取りに来た犯人を逃した警察は、被差別部落に見込み捜査を集中。そして、石川一雄さん(当時24歳)を別件逮捕し、厳しい取り調べを続けウソの自白をさせました。石川さんは、裁判で無罪を訴えましたが、一審で死刑、二審では無期懲役の判決を受け、最高裁でも上告棄却決定が下されました。逮捕から、31年7カ月の獄中生活の後、仮釈放されました。事件から55年たった今でも、無実を訴え東京高裁に再審を求めています。

証拠とされた万年筆は偽物 被害者のものではなかった

狭山事件では、「自白通り」石川さんの家から被害者の万年筆が発見されたとして有罪の証拠とされました。しかし、インクなどの色材を分析する専門家



の下山進・吉備国際大学名誉教授は、発見された万年筆には被害者が使っていたジェットブルーのインクが全く入っていなかったことを、科学的な実験を行って明らかにしました。有罪の証拠とされた万年筆は被害者のものではなく、全く関係のない偽物だったのです。裁判所は、専門家が指摘する万年筆の疑問を認めて再審を開始すべきです。

筆跡は99.9%別人 コンピューターが科学的に分析

狭山事件では、被害者宅に犯人が届けた脅迫状と石川さんの書いた上申書の筆跡が一致するとして有罪の証拠とされました。しかし、東海大学情報理工学部の福江潔也教授が、最先端のコンピューターを使って筆跡の画像を重ね合わせて相違度(筆跡のズレ量)を統計的に解析する方法で鑑定したところ、脅迫状と石川さんの上申書は99.9%別人の書いたものという科学的な結果が出ました。

1963年5月23日に石川さんが逮捕当時に書いた上申書より



取筆を止めている

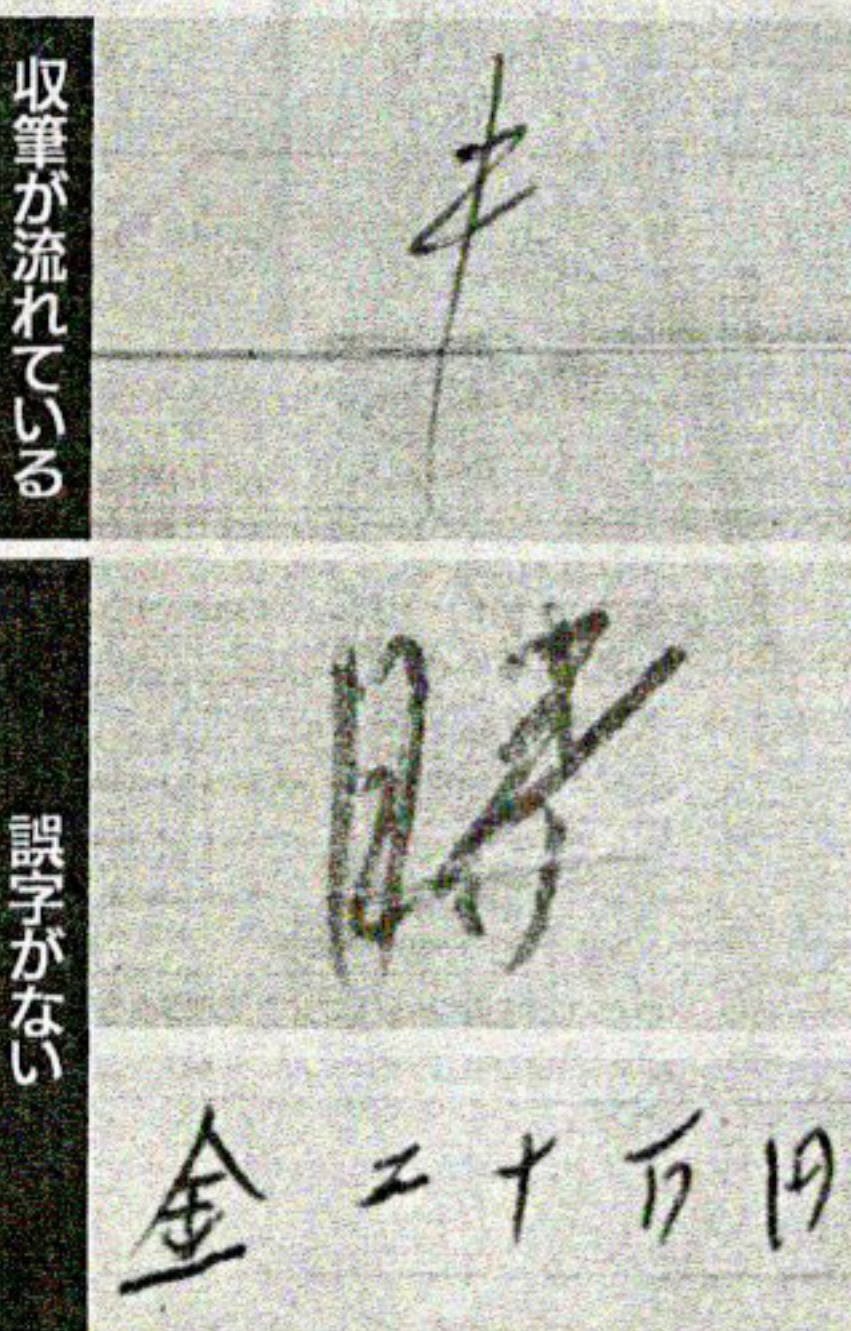
漢字が書けていない

〈も〉

〈時〉

〈20万円〉

1963年5月1日に犯人が被害者宅に届けた脅迫状より



取筆が流れている

誤字がない

弁護士が提出した筆跡鑑定より

再審を開始する二つの要件は、証拠の新規性と明白性です。二つの鑑定書は、その要件を十分に満たしています。東京高等裁判所第4刑事部は鑑定人の証人尋問を!

石川さんの訴え「再審の扉が開かれると確信」

55年後の今日まで、いまだえん罪を晴らすことができなかったけれども、この第3次再審で必ず再審の扉が開かれると確信し、自分自身のため、また何よりも長年にわたって支援し続けてくださった多くの支援者の皆さんの声に応えなければと、日々、自分自身に打ち込んで頑張っております。皆さんお一人お一人が石川一雄になり、真相究明のために裁判が開かれるように署名活動やさまざまに頑張っていることを思うと一層の闘争心が湧き、「これしきのことでへこたれないぞ」との覚悟であります。何とぞ私の固い決意をおくみいただき、最大限のお力を下さいますようお願い申し上げます。(2018年5月23日 狭山事件の再審を求める市民集会より)

日本人の差別に深く根ざす問題

「狭山事件」が日本人の差別の地盤に深く根ざす問題としてわれわれの文明全体にかかわるという、野間宏の論理づけは妥当なものと受けとめられよう。(大江健三郎著「小説の方法」(岩波書店)より)

ノーベル文学賞作家 大江 健三郎



私たちは狭山事件の一日も早い再審開始を求めます!

狭山事件の再審を求める福岡県民の会

三角 富士夫(福岡県狭山住居の会ネットワーク代表) 矢田 信浩(部落解放共闘福岡県民会議議長) 〒812-0044 福岡市博多区千代1-29-12 福岡県解放センター内 ☎092-651-7333

- 賛同人(賛同者) 雨宮 処凛(作家) 石坂 啓(漫画家) 内田 博文(九州大学名誉教授) 落合 恵子(作家) 鎌田 慧(ルポライター) 神田 香織(講師) 小林 節(慶應義塾大学名誉教授・弁護士) 桜井 昌司(布川事件えん罪被害者) 佐高 信(評論家) 新谷 恭明(西南学院大学教授) 菅家 利和(足利事件えん罪被害者) 中山 千夏(作家) 林 力(元九州産業大学教授) 武者小路 公秀(元国連大学副学長) 森山 沾一(福岡県立大学名誉教授) 山際 永三(映画監督)